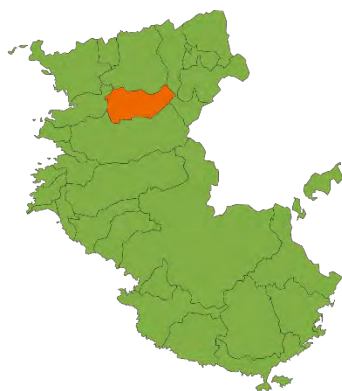


和歌山県海草郡紀美野町

地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生



【活動の基本情報】

参加学生数:12 名

(1 年生:2 名、2 年生:6 名、3 年生:4 名)

活動期間:2018 年 4 月～2025 年 1 月

担当教員:山岸大二郎

1. 活動実施の経緯

中田地区にある棚田を再生しようと新たな活動(中田の棚田再生プロジェクト)が開始し、小川地域外からの住民が耕作放棄され荒れた土地を棚田として蘇らせようと活動してきた。高齢化による地域活動の減少、離農や離農による耕作放棄地の増加などの課題を抱えるなか、様々な立場や世代の方と交流しながら活動を進め、棚田から広がる地域の活性化に繋がるよう取り組んでいる。

2. 活動の内容

今年度は、月に 1～3 回程度は棚田に訪れて活動し、棚田再生プロジェクトに関わる多様な関係者と交流を深めることにできた。また、昨年度から実施してきたインスタグラムの投稿分析の結果を、7 月に阪南大学で行われた観光学術学会でポスター発表をした。この調査を通して、より多くの観光客が「#中田の棚田」についての投稿をするようになってきていることが明らかとなった。

さらに、12 月には、「出会い・協働・学びの場としての中田の棚田」と題した報告会を実施し、参加学生は自分の興味関心あるテーマで中田の棚田を対象に実施した研究内容を報告した。学際的な研究分野である観光学を専攻する学生らしく、調査テーマが多様であったこともあり(例えば、責任ある観光、地域愛着、棚田の音・サウンドスケープ、生涯学習の場としての棚田など)、地域からは「様々な視点で棚田を考えることができた」といった感想をいただくことができた。

3. 活動を通じて

棚田という場所で、学生は棚田再生にかかる知識やスキルを身に着けるだけでなく、大学の座学で学んだ専門的な理論や知識を実験的に応用することで、それら専門知識の理解促進につなげてきた。活動終盤に、報告会を実施することで、学生は大学で学んだことを活かし、新たな視点を地域に提供することを意識しながら、活動に取り組むことができた。

4. 成果ポスター

紀美野町小川LPP

地区×学生による観光・文化・交流
情報発信と棚田の再生

ここが 私のアナザースカイ。

紀美野町小川地区

和歌山県の北部に位置する紀美野町。そのなかでも壮大な自然に溢れる小川地区。中田の棚田をはじめとした観光地が存在します。近年、その自然に魅せられ、多くの観光客や移住者が訪れるようになっていきます。

小川LPP

私たちは4回生1名、3回生4名、2回生6名、1回生2名で活動しています。学生視点での地域振興を目標とし、現地の方々との意見交換などを行いながら、地域の課題解決に向けて活動しています。

2024年度の主な活動

○中田の棚田再生プロジェクトへの参加

- ・草刈り、畦崩し、土寄せなど、棚田の整備活動を行いました。
- ・棚田で開催される田植えイベントや収穫祭に参加しました。

活動を通して棚田再生プロジェクトメンバーの方々や活動に参加される方々と交流を深めることができました。

○イベントの運営

- ・自分たちが主体となって地域で行うイベントの企画・運営に挑戦しました。

小・中学生をターゲットに設定し、「教育×自然」をテーマにしたウォークラリーイベントを企画しました。中田の棚田再生プロジェクトメンバーからの意見を踏まえて問題作成やルート設定を行いました。当日は小規模ながら実際に小学生を招きイベントを開催させることができました。イベントの運営を行う中で得た学びを来年度の活動に活かします。

○研究発表会

- ・メンバーそれぞれで中田の棚田を調査対象とした研究を行いました。調査によって得た研究結果をまとめ、地域の方々と招いた研究発表会にて発表を行いました。研究発表会は、研究発表に対して、地域の方々から直接フィードバックを得られたり、相互間の考え方を共有することができたりと、有意義な時間となりました。



フィールドワーク(5月)



田植え(6月)



ウォークラリーイベント(10月)



稲刈り(10月)

研究テーマ紹介

メンバーが行った研究内容を一部紹介します。

- ・中田の棚田訪問者のSNS利用に関する意識調査
- ・棚田をフィールドとした生涯学習
- ・SNSに投稿された写真から読み解く中田の棚田の魅力と可能性
- ・地域”を”人”を動かすイベントの役割



研究報告会(12月)

来年度の活動方針

- 1. 地域資源を活用した教育観光の推進**
季節ごとに、中田の棚田に関する問題を作成し、ウォークラリーなどのイベント通じて、地域の魅力を体感できる教育観光を促進する。
- 2. 学びと現地活動の相互連携の深化**
先行研究や他地域の事例を調査し、学びを現地活動に活かして地域へ還元する。

小川LPP
Instagram



中田の棚田
再生プロジェクト
Instagram





wakayama
univ.

4. 2024 年度合同活動報告会の実施

2)発表の実施報告

本会では、各報告時間に2プログラムずつ、別のエリアで発表を行った。当日の振り返りと報告のため、後日、各プログラムの発表の様子や、アンケートフォームで回収したご意見・ご質問に対する回答をまとめた報告書を参加学生が作成した。

和歌山県海草郡紀美野町

テーマ:地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生
●報告について 報告では 2024 年度に本 LPP で行った活動と来年度の活動目標を中心に発表した。発表では一つの活動に注力するのではなく、地域貢献と自分たちの学びを目標とした様々な活動に取り組んできたという本 LPP の特色を伝えることができたと思う。 ●質疑応答 Q.来年度の活動目標はどのように実現していく予定か。 A.本 LPP では「地域資源を活動した教育観光の推進」「学びと現地活動の相互関係強化」を来年度の目標として設定していた。ただ、実際にどのようにその目標を達成するかについてはまだ話し合いの途中であったため、現状としては検討段階であると回答した。来年度メンバーを中心に具体的な方法を決定させていく予定である。